Salmonella Choleraesuis による化膿性関節炎の一症例

◎高野 翔平[1)]、根﨑 栞[1)]、新井 伸介[1)]、篠﨑 ひとつ[1)]、吉川 弘美[1)]、福島 由美子[1)]、関口 芳恵[1)]
総合病院土浦協同病院[1)]

【はじめに】*Salmonella* Choleraesuis を含む非チフス性サルモネラ（non-typhoidal *Salmonella*:NTS）は胃腸炎の原因菌の1つである。NTS の代表的な生化学的性状として硫化水素産生性が知られている。今回我々は化膿性関節炎患者から硫化水素非産生の *S.* Choleraesuis を検出したので報告する。

【症例】80 代女性。糖尿病、突発性血小板減少性紫斑病の既往あり。ステロイド加療中。胃腸炎症状と右膝痛を伴う体動困難により緊急入院となった。入院中の膝関節液と血液培養から *S.* Choleraesuis が検出され化膿性関節炎と診断された。その後デブリドマンが施行され、CTRX を投与、ST 合剤や CPFX の内服へと変わり退院となった。

【微生物学的検査】関節液、血液培養からともにグラム陰性桿菌を認めた。MicroScanWalkAway（ベックマン・コールター）にて同定感受性検査を行ったところ 99%で *S.* Choleraesuis と同定された。試験管培地にて性状を確認した結果は硫化水素非産生となり、サルモネラ免疫血清「生検」（デンカ生研）による血清型別検査では O7 群に凝集が見られた。遺伝子解析の結果も *S.* Choleraesuis と同定された。

【まとめ】*S.* Choleraesuis は豚に宿主特異性が強く、豚以外からの検出は稀であるが易感染性患者には腸管外感染を引き起こすことが知られている。今回は患者が糖尿病であることや長期ステロイド服用に伴い感染を引き起こしたと考えられた。*S.* Choleraesuis には複数の生物型が存在しており、硫化水素産生の Kunzendorf 型や非産生の Choleraesuis 型などがある。当院が位置している関東地方では Choleraesuis 型が多いとされており、本菌も Choleraesuis 型と判明した。硫化水素産生が多いとされる NTS の中にも非産生の菌が存在することや、患者背景を念頭に置き検査をする重要性を再認識した症例であった。

【謝辞】遺伝子解析の実施にあたり、ご協力いただきました筑波大学附属病院感染症科人見重美先生に深く感謝申し上げます。
（連絡先 029-830-3711　内線 4524）